

# 「継続する大切さ」



村田 亮介 (34 歳) U ターン  
(今治市)

## 1 就農の動機・理由

父が祖父から農地を引き継ぎ、専業農家として働いてきた。私も市役所で働きながら週末には作業を手伝っていたが、それだけでは時間が足りないと感じ農業に専念することとした。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (2013 年)	現在の経営 (2019 年)	将来の経営 (2023 年)
労働力	男 2 人(本人,父) 女 1 人(母)	男 2 人(本人,父) 女 1 人(母)	男 2 人(本人,父) 女 1 人(母)
経営耕地	畑 96 a 樹園地 81 a 計 177 a	畑 83 a 樹園地 151 a 計 234 a	畑 83 a 樹園地 151 a 計 234 a
経営内容	れんこん 90a ハウスれんこん 6a 温州みかん 50a はれひめ 19a 紅まどんな 6a はるみ 3a その他柑橘 3a	れんこん 83a 温州みかん 20a はれひめ 20a 紅まどんな 15a はるみ 3a その他柑橘 3a 柑橘未成園 90a	れんこん 83a 温州みかん 20a はれひめ 30a 紅まどんな 25a はるみ 3a その他柑橘 3a 柑橘未成園 70a

### ○農業用施設

ビニールハウス : 5 棟(15a)  
農業用倉庫 : 2 棟

### ○主要農業機械

運搬車 1 台  
トラクター 1 台  
バックホー 1 台  
SS(スピードプレイヤー) 1 台  
選果機 1 台  
剪定枝処分用チップパー 1 台  
動力噴霧機 1 台  
アシストスーツ 1 台

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県今治市  
職歴 今治市役所  
就農研修歴 愛媛県農林水産研究所  
果樹研究センター

(平成24年7月~平成25年6月)

就農年月 平成 25 年 7 月

### (2) 就農時の思い

想像していたよりも作業が大変で、慣れるまでかなり苦労した。しかし、要領がつかめてくると徐々に楽しいと感じるようになり、前向きに取り組むことができるようになった。

#### 4 就農時の取り組み

##### (1) 技術の習得

当初は周辺の農家からアドバイスをもらうなどして知識を蓄え、作業を反復することで技術を磨いていった。現在は興味のある分野のイベントや会議等に積極的に参加している。

##### (2) 資金の準備

原則は自己資金で対応している。旧:青年就農給付金やJAのリース事業等も活用し、ハウスの建設や機械の購入にあてている。

##### (3) 農地・住宅の確保

農地は父親や地域から借り入れたり、自身で購入したりして確保している。住宅は実家で両親と同居している。

##### (4) その他苦勞したこと

就農前の計画に比べ、就農直後に担当する作業が大幅に増加したこと。特に、れんこん栽培において苦勞することが多く、慣れるまでに時間がかかった。

#### 5 農業経営の特徴

多くの種類の柑橘栽培に加え、れんこんも栽培しており、冬季の作業量がとても多い。作業の省力化・効率化を常に考えており、先進的な技術や機器も積極的に導入するよう努めている。

#### 6 これからの夢

現時点で心にゆとりを持って作業にあたれていない。やりたくても手が回っていないことが多いため、やりたいことにも取り組めるよう作業の効率化をより一層図っていきたい。また、時間的に余裕を持ち、趣味なども楽しめるようになりたい。

#### 7 成功したキーポイント

作業が忙しく、休む間も無い日々が続いてきたが、それでも手を抜くことなく継続してきたこと。休みたいと思うことが何度もあったが、1シーズン終えたときの達成感や充足感を思い出して踏ん張ることができた。

#### 8 就農を目指す方へのアドバイス

就農直後は、想像するよりも苦勞することが多いと思う。でも、しんどいと思うだけでは農業を続けていけない。地域には、農業の良き先輩方が必ずいる。農業に対するやりがいや熱い思いを共有し、自分自身が成長できる環境を自分で作り上げていってほしい。

##### ○ 指導機関からのひとこと

村田さんは就農直後、就農前の計画とのギャップにかなり苦勞されていた。しかし、自ら情報収集や技術習得に積極的に取り組み、短期間で独立できるよう努力されてきた。管内の青年農業者組織にも所属しており、地域の担い手として今後も活躍して頂きたい。

#### 執筆機関

東予地方局産業経済部

今治支局地域農業育成室

電話番号 0898-23-2570



れんこんの掘り取り